

④ がけにそって地層を追いかけてみよう。地層は水平方向に広がりをもって
いることを理解する。

(3) 地層に近づいてその特徴を観察させる。

㊸層は灰白色をした粘土層で、水がとおりにくい地層です。

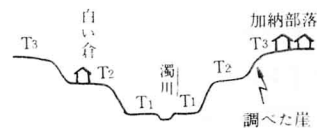
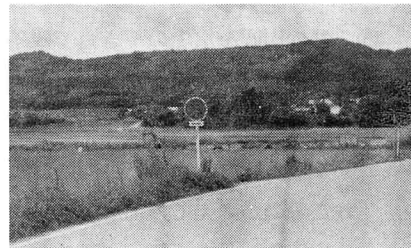
㊹層は1 cm～15 cm大の円レキからできている地層で、灰色のレキは安山岩の
レキで、白っぽいのは流紋岩のレキです。このようなレキは川原で見かけられ
ることができます。だからこの地層は川のはたらきでできた地層と考えられま
す。

また、㊹層はレキとレキとの間にすき間が多いので、雨が降った時など、地
面にしみこんだ雨水がこのすき間にたくわえられます。㊸層との境から水がし
み出ているのが観察されます。

㊺層は砂からできている地層で、上部に5 cmの厚さで白っぽい粘土の地層を
はさんでいます。

これらの地層は第四紀の洪積世の
頃つもった地層で、その後の地盤の
隆起運動で段丘地形ができました。
濁川をはさんで、両岸に対象的に段
丘が発達しています。

川向いの岩尾部落に見られる白い
倉の建っている面は、こちら側のど
の面と同じでしょうか。



2、川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

濁川の橋の下流

(2) 川の流が見通せる土手の上から、
川原の様子や水の流れを観察する。

① 土手から川の全景をスケッチす
る。

